科目区分：人文・社会科学科目

授業科目名	人間と文化（哲学のススメ）					学期	曜日	校時
英語名	Humanity and Culture ((Elementary Philosophy)							
担当教員名	永嶋　哲也	単位数	２単位	必修選択	選　択	後期	水曜日	３校時

授業のねらい・内容・方法

哲学は普通「何の役にも立たない学問だ」と言われている。確かに、何か別のものへの実用的な応用がないという点では「役に立たない」という言い方は正しいと思う。しかし哲学的な思考態度は、哲学自体が何の応用もないだけに、逆にあらゆるものの役に立つとも言える。この講義では、そのような哲学的思考態度（正しく理解し、自分自身で考えること）を身につけることを目指す「哲学入門」である。

テキスト、教材等

教科書は特に指定はしない。必要であればプリント等の資料を適宜用意する。参考文献は講義中紹介する。

対象学生	成績評価の方法	教員研究室
全学部	平常点、および学期末試験・・・学期中に数回、授業中に授業内容に関する感想・意見などを書いてもらう。その内容でもって講義に対する積極性という平常点を判断する。学期末試験は記述形式で二問。一つは授業内容の要約で、もう一つは自らの意見を展開してもらう。	

授業計画

例えば「在る」とか「知る」「正しい」「こころ」などの言葉の意味とはどういうものだろうか？言いかえれば、そういうもの／こととというのは、日常にありふれていて、なにげなくて使っているけれども、いざ「それは何？」「どういうもの／こと？」と訊ねられるとその答えに困ってしまう。そういう身近だけれども考えてみれば謎な事柄こそ、哲学の主要問題・中心問題になるのだと思う。

だからこの講義では哲学入門のために、“ダレダレがこう考えた”“ダレダレがこう言った”などいうのではなくて、事柄中心に、つまり上で書いたような主要問題を中心に取り上げる。

今年度は、つぎのようなテーマを取り上げる予定している。

・存在　——　「ある」とはどういう意味か？
・認識　——　何かを「知る」とはどういう意味か？
・時間　——　何かが流れているのか？
・真理　——　文や知識が「正しい」といえるのはどういうことか?

各テーマについて、なぜその問題が問われるのか、どのような仕方で問われるのかを説明し、そしてその問題に対して様々な人たちがどのような解決案を提出したかを紹介したい。それに対して受講生の諸君がどのように考えるか、授業中のレポートいう形で書いてもらおうと考えている。

授業スケジュール：

01 回目　イントロダクション（概論）
02 回目　　（承前）
03 回目　存在　「在る」のさまざまな意味
04 回目　　時間空間の中に「ある・ない」
05 回目　認識　「ある」と知ること
06 回目　　知覚の欺き
07 回目　　（承前）
08 回目　　探求のパラドクス
09 回目　時間　存在するか？
10 回目　　流れているか？
11 回目　　幅はあるか？
12 回目　　過去や未来はあるか？
13 回目　真理　対応説と整合説
14 回目　　うそつきのパラドクス
15 回目　試験

オフィスアワー（質問受付時間）：特に定めない。来校時にはいつでも非常勤講師室にて対応する。